

## 「ことばのカトリアル第 6 号」

### 「マルキュー株式会社様による御講演」

令和元年 9 月 12 日(木)、栽培環境コース 2 年生を対象に、マルキュー株式会社様による講演会及びワーム作りを実施しました。この取組では、授業前半にマルキューの長岡様より、魚類の感覚器官に関する講義を行っていただき、授業後半ではワーム作りを体験し、さらに午後実際に作ったワームで釣りを行いました。今回の取組を通して、釣り具が開発の裏側ではいかに魚類の感覚器官を考慮して作られているのかということが学べました。また、マルキュー様が開発を進めておられる完全生分解性ワームについて考え、海に蓄積されているゴミの問題についても考える機会となりました。

#### 小倉 遼平

ワーム作りを行い、自分で作ったワームで魚を釣るという貴重な体験ができて、とても楽しかったです。ワームを使って釣りをするというのは初めての経験でしたが、自分で作ったワームに魚が食いついた時の感覚が忘れられません。これからもワームを使った釣りの技術を上達させたいと思います。

#### 風見 将輝

海ゴミのお話では、僕たちが日頃から使っているプラスチックが海にたくさん流れていて、魚に大きな被害を与えていることを知り、驚きました。このまま増え続けると魚だけではなく、やがて僕たち人間にまで被害が出るかもしれません。そう考えるだけで恐ろしく思います。そうならないために、どのような対策が必要か、僕たち海洋高校生が考えて実行するべきなのだと思います。例えば、釣りをする際には、マルキュー様が開発されている完全生分解性ワームを利用し、少しでもゴミの排出を防止したいと思います。またゴミが出たら持ち帰るなど、小さなことからやっけていき、海を大切にしよう、今回の実習で強く思いました。

#### 十河 信太郎

印象に残った内容として、「魚は色を見分けられる」という内容です。その理由は、よく釣れるワームやジグなどのカラーは白、灰、黒だということを知ったからです。私自身、釣りをよくする方ですが、毎回、赤ゴールドやブルーピンクといった、人から見て目立つ色ばかりを使用していました。この話を拝聴した時は、正直冗談だと思っただけで驚きました。今度釣りをするときには、白、灰、黒のルアーを使用してみようと思います。

#### 中西 慶吾

餌の開発は、魚の生態や習性をより理解し、新たな発見を探す職業であると感じました。生分解性ワームは自然環境中の微生物(バクテリア)によってゆっくりと確実に分解されていき、最終的には無害な水と二酸化炭素に還元されるので、釣りの際に根がかりをしても環境への影響は最小限です。これまでの釣りエサは、魚がよく釣れることを主眼において商品開発をされているような印象がありましたが、これからは、魚のことも考えた釣りエサに切り替わっていくのだと実感しました。

#### 平井 翔

長岡様の話で印象に残った内容は、「金魚は青色を見分けることができる」という内容です。私は魚類は色を見分けることができないと思っていたので、とても興味深かったです。また、「光の屈折によって魚には私たちの姿が見えていても、私たちには魚は見えない」ことも知りました。私たちが見えていないとわかっていても、魚には私たちが見えているので、急に出てくると驚いてしまいます。このことは、普段の給餌の際にも役立つ知識であるので生かしていきたいです。